

オージーの台頭と実力

IMF は世界各国の外貨準備高とその通貨構成を四半期ごとに公表している。その通貨はドル、ユーロ、円、ポンド、スイスフランで、それ以外の通貨はその他としてくられている。外貨準備に組み入れられる通貨は、主要通貨として信用力のある通貨に限られるからだ。

その統計に来年からオージーが加わる。今年第二四半期末の世界の外貨準備ではドル61.9%、ユーロ25.1%、円とポンドが3.8%ずつ、スイスフラン0.1%、その他5.3%だ。金融危機以来もっとも伸びたのがその他通貨だ。金融危機の前は1.7%(06年末)だった。その他通貨にはオージー、カナダドル、スウェーデンクローネなどが含まれるが、もっとも多いのがオージーだ。スイスフランより多いことは確実だ。

オージーは市場取引量でも既にスイスフランを抜いてポンドに次ぐ5番目になっている。実質的には既に国際通貨であり主要通貨だが、IMF の統計に含まれることで名実共に主要な国際通貨になったと言える。

オーストラリアの国債は三大格付け会社から最上級格付けを受けている数少ない(7カ国)国債のひとつだ。フランスが最近 AAA から格下げになったように、最上級格付けは一層希少価値になる。中央銀行の中には AAA 以外の国債は保有しないところもあり、その点ではオージーの需要は底堅いと思われる。

オージーは資源国通貨であり、高金利通貨である。オーストラリア政府は資源ブームはピークを超え、資源から他の産業へ軸足を移す必要を指摘している。オージー高を懸念する声も多い。オージー高によるコスト高で立ち行かなくなるプロジェクトが増える可能性があるからだ。

しかし通貨高を防ぐためブラジルのような資本流入に対する課税措置や日本のような巨額介入をやる様子は見られない。交易条件が悪化すれば通貨高は止まると、市場メカニズムに任せる考えが強い。

それがまた海外投資家の信頼を得るのだ。その点ではオージーの堅調さは当面続きそうだ。